

退職者 NO.96

こだま会報



仲間と手をむすび いきいき人生

目次

- ・総会案内……………①
- ・総会議案……②～⑤
2011年度経過及び決算報告／同監査報告
／2012年度活動方針案／長寿祝い制度新設と弔慰金制度の廃止案／2012年度予算案
- ・カナダ・ウイスラースキー旅行……………⑤
- ・会員紹介・辻村博さん／『合同句集こだま』第3集発行…⑥
- ・歴史散策／絵手紙／予告……………⑦
- ・早春の梅見ハイキング／こだま俳壇…⑧



六月の円覚寺（青沼慶祐さんの作品）



神奈川県
職 労 連

退職者こだま会第28回定期総会のご案内

とき 6月23日(土)
10時30分～13時

ところ かながわ県民センター3階301号室
(横浜駅西口徒歩5分) *会場・時間が変わりましたので間違いなく



みなさん、いかがお過ごしですか。第28回定期総会を開催します。この1年をふりかえり、新しい運動方針をみんなで作っていきましょう。総会終了後は懇親会を開きます。場所は、横浜駅西口『高島屋』近くの『Foodium Bar 一瑳 横浜店』（フードディアン・バー・いっさ・横浜駅西口三栄ビル7階 045-317-1136）で、会費は2000円。なお、総会と懇親会の会場が変わりましたので、お間違いのないようにしてください。出欠は同封のハガキで6月10日必着でお願いします。

※会員の皆様へお願い…住所を変更された時は事務局までご一報を。

神奈川県職労連 退職者こだま会第28回定期総会議案

〈第1号議案〉

2011年度経過及び決算・監査報告

I はじめに

東日本大震災では死者・行方不明者1万9千余人、災害復旧はまだまだに遅々として進んでいません。福島原発事故による放射能問題は、解決の展望も見えず、課題が山積しています。

野田政権は、大企業には法人税率の引き下げをはかり、国民には「社会保障と税の一体改革」の名目で消費税増税と社会保障の切り捨て、後期高齢者医療制度の存続、普天間基地の辺野古移設の強行、TPP(環太平洋経済連携協定)参加、比例80議席削減など、国民の願いに反する政策を強行しようとしています。

当会は昨年の総会で役員8人が入れ替わり、幹事会での議論を軸に方針の具体化を図ってきました。

健康講座は実施できませんでしたが、レクリエーション活動を通じて会員の仲間づくりや交流が進みました。また、『会報』の定期発行、ホームページをリニューアルしました。

高齢者のくらしを守るとりくみでは、高齢期運動や「九条の会」と

りくみへの参加、「社会保障の充実を求める署名」「安全・安心の医療・介護の実現署名」を進め、多くの会員の協力を得ることができました。会員拡大では、2011年度の新規加入者は昨年度を若干上回りましたが、会員数は横ばいです。引き続き神奈川県職労連と連携し、加入の働きかけを強めていく必要があります。

II 活動報告

1 趣味を生かした文化・レク活動
①こだま会のとりのくみ

レク活動は、次の五つの実施にとどまりました。新しく「こだまサロン」を毎月最終木曜日に県民センターで開設しましたが、出席者が限定しているなどで検討が必要です。

○「小江戸から21世紀へ」春の小旅行「浜離宮〜東京スカイツリー」(4月13日・5人)

○「佛行寺にツツジの花と鎌倉山周辺の新緑を訪ねる」大船周辺(4月25日・10人)

○「カナダ・ウイスキー一週間スキー旅行」(1月13日〜19日・4人)

○「早春梅見ハイキング」小田原曾我梅林(2月18日・16人)

○「こだまサロン」(10月から毎月最終木曜日、14時〜16時・県民セン

ター)

②趣味の会の活動

○俳句サークル「こだま句会」

定例会は毎月第2木曜日。吟行は、「秦野の白泉寺・戸川公園」(4月5日)、「小田原曾我梅林」(2月18日)、「相模原・かたくりの里」(3月8日)。他に、「明治大学平和教育登戸研究所資料館」など他の句会と交流。「手作り文化祭」へは短冊出品17人。『合同句集こだま』第3集を発行(12年5月)しました。

○囲碁同好会

毎月第1日曜12時から藤沢の「囲碁サロン」で実施。

○歴史教室

講義「頼朝の旗上げと三浦氏の決意」(6月13日)

散策「東京・雑司が谷墓地と護国寺を訪ねる」(9月12日)

散策「一の宮・寒川神社」を訪ねる(11月14日)

散策「能見台から歴史の道」称名寺・金沢文庫などを訪ねる(3月15日)

○食文化を楽しむ会・薬膳料理

「夏をのりきる薬膳料理」(7月28日)「風邪予防の薬膳料理」(11月24日)

③神奈川県自治労連退職者会「手づくり文化祭」

横浜市市民会館で11月23日に開催。

当会からは油絵、水彩画、写真、俳句、ビーズ手芸、紙飛行機模型、演芸などに参加し、交流を深めました。

2 「長寿祝い制度」新設について

定期総会や幹事会で議論された「長寿祝い制度の新設と弔慰金制度廃止」の問題は、昨年10月の幹事会で案を決め、1月発行の会報に(案)を載せ、ハガキでアンケートをとりました。

その結果、2月5日締切りで398通の回答がありました。内訳は、①幹事会提案の「長寿祝い制度の新設と弔慰金制度廃止(案)」に賛成254、②「従来どおり弔慰金制度とするが、弔慰金額は3千円とする」14、③「弔慰金制度も長寿祝い制度もなくよい」111、④「その他」(意見) 13、⑤「無回答」6でした。「意見」には「経過措置はほらない」などありましたが、幹事会提案への賛同が大勢を占めたことから、原案通り総会で提案することを幹事会で確認しました。

III 会員の加入状況と会の運営

1、会員拡大のとりのくみ

会員数は2012年3月末現在1,329人。2011年度の加入者は35人(終身会員29人、年会費会員6人、前年度は計29人)。加入の働きかけは、県の退職者説明会4回(2月上旬〜3月下旬)と県職労各支部の「退職者慰労の集い」で実施。また、火災共済の更新手続きの際、加入資料を同封して、加入を呼びかけました。

2011年度(平成23年度)一般会計収支決算書

(2011年4月1日~2012年3月31日)

(単位:円)

(単位:円)

収 入			
項 目	予算額	決算額	摘 要
年 会 費	272,000	251,000	@3000×83+ @2000×1
終 身 会 費	500,000	825,000	@25000×33
県職労連交付金	685,000	685,000	
共済助成費	1,200,000	1,205,082	
雑 収 入	183,264	42,372	祝金・利息・「伝えたい想い」等
積立繰入金	550,000	500,000	積立金会計から
寄 付 金	0	0	
前年度繰越金	939,736	939,736	
合 計	4,330,000	4,448,190	

支 出			
項 目	予算額	決算額	摘 要
事務局費	850,000	545,059	事務運営等
行 動 費	350,000	143,380	高齢者大会・自治労連退職者会総会等
広 報 費	1,100,000	1,021,105	「会報」に関わる全費用を計上
総 会 費	450,000	203,960	
会 議 費	450,000	479,625	幹事会・役員選考委員会等
通 信 費	380,000	51,615	
弔 慰 金	100,000	95,000	@5000×19
負 担 金	50,000	50,000	神奈川自治労連退職者会
積立繰出金	500,000	500,000	積立金会計への繰出
予 備 費	100,000	0	
次年度繰越金		1,358,446	
合 計	4,330,000	4,448,190	

(注)従来「雑収入」に計上していた総会後のレセプション等本人負担分を、収入ではなく、レセプション等経費から差し引いて支払いました。
また、「通信費」に計上していた「会報」の発送費を「広報費」に計上した。

2、会の運営
幹事会を7回、四役事務局会議を毎月1回、事務作業は毎週火曜日に集中して進めました。また、法律相談が1件ありました。
3、「会報」とホームページ等の充実
「こだま会報」は年金、医療などの情報をはじめ趣味活動や高齢期運動のとりくみなどを掲載し、年4回

(92号~95号) A4版(8ページ)16ページ)で発行。会員が多く登場する「会報」をめざしました。
ホームページは、発行した「会報」や行事案内などを掲載。また、その速報性を生かした情報提供をしています。会員からの季節の便りや写真、地域の話題なども発信しています。

2011年度(平成23年度)積立金会計収支決算書

(2011年4月1日~2012年3月31日)

(単位:円)

(単位:円)

収 入			
項 目	予算額	決算額	摘 要
前年度繰越金	15,789,432	15,789,432	
本年度収入	510,568	504,263	
内訳			
積立金	(500,000)	(500,000)	一般会計から
利息	(10,568)	(4,263)	
合 計	16,300,000	16,293,695	

支 出			
項 目	予算額	決算額	摘 要
本年度支出	550,000	500,000	一般会計へ
次年度繰越金	15,750,000	15,793,695	
合 計	16,300,000	16,293,695	

会計監査報告

会計監査報告

2012年4月17日

神奈川県職労連退職者こだま会
代表幹事 加瀬 文隆 殿

2012年4月17日、こだま会事務室において2011年度一般会計及び2011年度積立金会計について、それぞれの会計監査帳簿、支出証拠書類、預金通帳等監査を実施したところ、適正に執行されていることを認めます。

会計監査 辻村 博 (印)
会計監査 木村 武子 (印)

4、高齢期運動など、くらしと平和を守るとりくみ
①全国自治体退職者会連絡会
第14回定期総会が8月20日、静岡市で開かれ29の退職者会、47人が参加。当会からは全国連絡会事務局次長・加藤利秋さんを含め6人が出席。
総会は被災地岩手県大船渡市からの報告があり、被災地の復旧・復興支援・原発問題が中心になりました。当会からは、今期8人の役員交代があったこと、会員の絆をつくる上で「会報」の役割、組織拡大・強化などを報告しました。
なお、3月22日には厚生労働省と年金、介護保険、国民健康保険制度などの要求を提出し、交渉しました。
②神奈川自治労連退職者会
定期総会が10月19日、横浜市従会館で開かれ、交流しあいました。当会からは役員として会長に加瀬文隆

さん、事務局次長に青沼慶祐さん、幹事に山本裕さんと小島八重子さん、監査に酒井道生さんを派遣しています。「手づくり文化祭」(11月23日)には、実行委員会のメンバーとして奮闘しました。
③日本高齢者大会
「第25回日本高齢者大会 in 青森」(9月12日~13日)に代表1人が参加しました。大会では、国民健康保険と高齢者医療制度、介護保険制度の改善などの問題で論議を深めました。
④神奈川高齢期運動連絡会
「地域と仲間の連帯で孤独死を防ぎ、安心して暮らし続けるまちづくりを」などをスローガンに、第7回「輝け高齢期かながわのつどい」(11月21日・横須賀)に4人参加しました。
⑤神奈川県職員九条の会
11月13日の「かながわ九条まつり」(関内大通公園)や、12月10日の県職員九条の会の6周年記念「平和の集い」(開港記念会館)―ジャーナリストの綿井健陽さんが、「福島第一原発取材の現場から」と題して講演―などのとりくみへの参加を呼びかけました。
⑥署名のとりくみ
「社会保障の充実を求める署名」と「安全・安心の医療・介護の実現署名」の署名活動を行いました。短期間のうちに、前者は191筆、後者は241筆寄せられ、それぞれ政府関係機関に届けました。

〈第4号議案〉

2012年度(平成24年度)一般会計予算(案)

(2012年4月1日~2013年3月31日)

(単位:円)

(単位:円)

収 入			支 出		
項 目	予算額	摘 要	項 目	予算額	摘 要
年 会 費	252,000	@3,000×84	事 務 局 費	600,000	事務運営等
終 身 会 費	800,000	@25,000×32	行 動 費	300,000	高齢者大会・自治 労連退職者連絡会 総会等
県職労連交付金	685,000		会 報 費	1,100,000	会報発行に関わる全費用
共 済 助 成 費	1,200,000		総 会 費	250,000	幹事会・事務局会議
雑 収 入	50,000	祝金・利息等	会 議 費	500,000	
積立金繰入金	0		通 信 費	100,000	
寄 付 金	0		弔 慰 金	100,000	@5,000×20
前年度繰越金	1,358,446		負 担 金	50,000	神奈川県職労連退 職者会
合 計	4,345,446		繰 出 金	800,000	積立金会計へ(終 身会費収入と同額)
			予 備 費	150,000	
			次年度繰越金	395,446	
			合 計	4,345,446	

2012年度(平成24年度)積立金会計予算(案)

(2012年4月1日~2013年3月31日)

(単位:円)

(単位:円)

収 入			支 出		
項 目	予算額	摘 要	項 目	予算額	摘 要
前年度繰越金	15,793,695		本年度支出	0	
本年度収入	805,000		次年度繰越金	16,598,695	
内 訳	積立金	(800,000)	合 計	16,598,695	
	利 息	(5,000)			
合 計	16,598,695				

〈第2号議案〉
2012年度活動方針(案)

I 私たちをとりまく情勢

1 国民のくらしと国政の動き
○民主党政権は、大震災と原発事故への対応に立ち遅れるばかりか、消費税大増税と年金給付削減・支給開始年齢引き上げなどを含む社会保障一体改悪を押し進めようとしています。

○大企業のリストラ・雇用破壊のもとで、貧困と格差が広がり、中小企業の経営困難・地域経済が深刻になっていきます。こうした状況下での消費税増税は、日本経済と国・地方の財政危機を一層深刻にするものです。
○公務員を巡っては、国家公務員の賃金2年間7・8%削減を強行し、地方公務員に対しても人勧に基づかない給与削減を迫っています。
○少子高齢化の問題、国・地方の財

政危機などを、国民の生活を支援し、内需拡大・内需主導経済への転換の方向で打開していくことが求められています。
○自民党は、憲法改正原案を示し国会提出を目指すとしています。また、橋下大阪市長の職務命令による職員への思想調査など、平和と思想・信条の自由に対する攻撃も見逃せません。

2 神奈川県政をめぐる動き
○県は3月、「かながわグランドデザイン(総合計画)」を決定。2012年度予算案は、地震防災対策予算の新規事業はわずか12億5千万と内実を伴っていません。また、新たに民間園保育所運営費補助の削減など障害者や子育てに冷たい予算となっています。
○民営化・人件費削減攻撃のもとで、県の行政職員の定数は15年間で7137人も削減、知事部局の優先機関数は127も削減されています。さらなる「人件費の抑制」は、県民サービスの低下と県政の空洞化をもたらすもので、容認できません。

II 活動の基本方向

1 永年、県政にそれぞれの経験と知識を発揮してきた人たちが「こだま会」の運動を支え、趣味を生かした文化・レクリエーションなどの活動にとりくんでいます。仲間づく

りや交流の場をさらにふやし、楽しく実りある活動にしていきたいです。
2 高齢者の安心したくらしのために、保健・医療・福祉・年金制度を充実する活動を進めます。
3 「神奈川県職員九条の会」等と連携し、憲法9条擁護の運動を進めます。
4 有利で安心な火災共済・自動車共済・がん保険などの福利厚生事業や、法律・年金・税金・介護保険・成年後見制度・住宅バリアフリー化など、身近な問題での相談活動を進めます。その際、会員の専門性を生かすなど充実させます。
5 神奈川県職労連との協力・連携を強め、全国自治体退職者連絡会をはじめ、県内外の民主団体と協力して、いのちとくらし、平和と民主主義を守る運動に参加します。
6 退職者への「こだま会」加入を呼びかけ、会員拡大運動を強めます。

III 活動計画

1 健康講座など

会員が一番の関心事は健康問題です。「健康講座」などの学習会を追及します。また、昨年始めた「こだまサロン」は、事務局開設日の毎月最終火曜日の14時~16時に、県職労連事務所の一角で継続します。
2 「趣味の会」などの活動

会員の趣味を生かした活動を支援し、充実を図ります。みんなで楽し

める集い、お花見会やみかん狩りなどを計画します。

3 保健、医療、福祉、年金制度などの充実

保健、医療、福祉、年金制度の充実や、消費税増税反対、TPP(環太平洋戦略的経済連携協定)推進反対、脱原発などの全国的な課題では、学習会や署名運動などを、全国の仲間とともにとりくみます。

4 「手づくり文化祭」の充実

神奈川県自治労連退職者会主催の「手づくり文化祭」(毎年秋に開催)に多くの会員が出品し、参加できるよう『会報』や『ホームページ』等で周知し、他の退職者会との交流を深めます。

5 『会報』『ホームページ』の充実

『こだま会報』(6月・8月・10月・1月発行)は、会員をつなぐ情報源です。会員が主人公の紙面を追及します。日常的には、情報を相互に提供しあう『ホームページ』の役割が重要です。身近な話題や写真の投稿などで、充実を図ります。また、インターネットの活用も図ります。

6 会員拡大運動

神奈川県職労連(県職労・県病院労組・県公務一般労組)と連携し、早期退職者、定年退職者、再任用(再雇用)退職者にきめ細かく対応し、加入を呼びかけ、「こだま会」を大きくします。

〈第3号議案〉

長寿祝い制度の新設と弔慰金制度廃止について(案)

総会での、「会員のつながりを強めるためには、本人が亡くなつてからの弔慰金制度(単身者など把握が困難なケースもある)より、生存中の長寿祝い制度の方が良いのでは」等の意見をふまえ、幹事会で制度見直しの議論を進めてきました。

2011年10月18日の幹事会で案をまとめ、1月に会員アンケートを

実施したところ、幹事会案が高率で支持されましたので、以下のとおり提案します(アンケート結果は経過報告のⅡの2に記載)。

- 1 長寿祝い制度の新設について
 - (1) 対象年齢・77歳(各年度の4月1日時点で満77歳を迎えた者。喜寿)
 - (2) 対象者・終身会費会員及び年会費会員(ただし、年会費会員は会員期間10年以上の者)
 - (3) 祝い金額等
 - ① 3千円相当の記念品
- 2 弔慰金制度について
 - ① 弔慰金制度は、2013年3月31日をもって廃止する。

カナダ・ウイスラーでスキーを満喫

1月13日から1週間、スキーツアーでカナダ・ウイスラーに行ってきました。参加者は4人。



バンクーバーからハイウエーで2時間半のウイスラービレッジは、雪の中の「デイズニールランド」といったところ。お城のような建物群のある魅力的な街です。スキー場はブラッコムが2284m、

ウイスラーが2182m。コースは200本以上ある北米最大規模。2010年のバンクーバー冬季オリンピックでは、山岳競技の会場となりました。

グレレンデの昼食のハンバーガーや飲み物の量は、日本の倍から3倍で、値段は同じ。午後4時半でリフトやゴンドラは終了です。

ホテルに引き上げ、スーパーに食材、飲み物の調達にかけます。探しているものが見つからず、ある物勝負で調理です。もたもたしている仲間を見かねて料理上手の巴さんの腕がさえ、ビール、ワイン、ウイス

キーと、はかがいきます。そして、「原発事故と自然再生エネルギーでどうする」「人類学とブラックホール」と学術的で深遠なテーマでアフタースキーの夜が更けるのでした。

最後の晩は、ビレッジの日本料理屋で寿司、天ぷら、餃子、サラダに日本酒、ビールで豪快に打ち上げました。それでも一人当たり日本円にして三千数百円でしたから、円高の影響でしょうか。

それにしても参加者の皆さんの旅行なれに驚きました。巴さんのパスポートは海外のスタンプで押すところがあわずか。ホテルでも買い物でも空港でも一番後ろからくっついて、行ってきました。(鳥居伸太郎)



-34-

私は高校の工業化学科を出て、化学会社の工員として2年働き、その後、神奈川県工業試験所の研究職に就き、化学の仕事で定年までしてきた。その当時は、高卒でも研究職になれた時代である。もう50年も前のことで、いまでは考えられない。

この間、労働組合の役員として、分会・支部を中心に活動し、とくに1990年前後の時期、労働組合の路線選択では苦労した。

●夜間大学では化学を学ぶとともに山岳部に所属

夜学時代は、勉強とクラブ活動を両立させることであった。その点では、若干問題もあったけれど、思い出深いのは、何といても山岳部の活動である。数多くの山に登ったが、そのこ

とよりも「オキテ」を破ってしまったことである。つまり、留年しないことがオキテだった。先輩からことあるごとに、「我が部で留年した者は誰もいない。辻村、絶対に予定どおり卒業しろよ。落第など許さないぞ」と脅されたが、禁を破って留年してしまった。

従って、後輩には山岳部の「オキテ」を伝えることができなかった。

その後、留年した者はいないようで、賢明な後輩たちだったといえよう。

●健康を第一にしている

ソフトテニスは登山同様大切な趣味で、「こだま会」役員の高木信幸氏には工業試験所入所以来、仕事もテニスも教えていただき、いまも「継続は力なり」と続けている。

退職後、元気でいられたのは2年ほどである。腹膜炎、そして63歳の時、直腸癌を患い、直腸全摘出直後、精

趣味と友人が支えた健康

辻村 博さん



チェコのプラハにて (2011年)

神的に不安定になり「うつ病」と診断された。精神科に1年通うことになる。この時、精神的な支えになったのは、趣味のテニスと工業試験所以来の友人である。夢中になって白球を追い、病のことなど一時忘れさせてくれる。汗を流すことで、夜も眠られるようになり、食事も旨いいただける。そうこうするうちに回復した。いまでは、登山も丹沢の日帰りか

ら山小屋泊(但し携帯トイレ持参)もできるようになった。去年の夏、北アルプス、秋は北八ヶ岳の縦走。山小屋での楽しみは、酒を酌み交わし、山談義に耽ることである。

●最近のこと

東日本大震災、東京電力福島第一原発事故から10カ月が過ぎた今年1月中旬、岩手県宮古市田老と、福島湯温泉を訪ねた。テレビの映像から被害の惨状を知るだけでなく、実際に自分の目で見なければと思っただからである。

田老へは、宮古から三陸鉄道で行く。ホームに降り立つと、そこは瓦礫の山また山。防波堤の上や周辺をくまなく歩く。幾重にも積まれた自動車の残骸、家屋のコンクリートの基礎だけが残る更地など、震災直後の度々の映像が蘇ってくる

翌日、土湯温泉へ。原発事故による放射線汚染にさらされ、風評被害で客がめっきり減り、温泉地は火が消えたような有様であった。宿泊した旅館の主人と女将に聞くと、「この辺はもう放射線量も低くなっているのに、風評被害で客足も鈍り、営業が立ち行かない」「温泉街はどこも大変で、大きなホテル、旅館など閉鎖、廃業になっている」という。当日は老夫婦2組とわたしの5人の宿泊客であった。

俳句サークル「こだま句会」

『合同句集こだま』第3集を発売

俳句サークル「こだま句会」は5月、『合同句集こだま』第3集(A5版72ページ)を発売しました。表紙絵は、こだま会会員・河合幹彦さんの水彩スケッチ『山下公園のインド水塔』で飾られています。発行は4年ぶり、会員の力作20句を掲載。指導していただいている太田土男先生(俳人協会評議員)からは、「震災と廃村」と題した20句と、会員作品の選評が掲載されています。頒価300円。入手方法はこだま会事務所まで。



▲5月に発行した「こだま」第3集
▲こだま句会の皆さん

◆会員募集中◆

会員は現在17人。①楽しい句会、②仲間づくり、③作品の向上をモットーに活動。会員募集中です。詳細、問い合わせはこだま会事務所(045-212-3179)または井村友彦さん(0463-81-4493)まで。

予告!! 予告!! 予告!!

- 歴史教室(散策) <第53回>
 テーマ 東京・港区の文化財を訪ねると
 き 6月14日(木)
 集合 JR「桜木町」駅午前9時
 中央改札口「緑の窓口」附近
 会費 500円(交通費別)
 講師 中村猪一郎会員
 申込先 こだま会事務所045(212)3179
 又は佐藤喜治045(361)0112
- 俳句教室
 月例会(毎月第2木曜日13時~)
 6月14日 7月12日
 ところ 県庁本庁舎6階(共用会議室)
 指導 太田土男先生(俳人協会)
 会費 500円
 申込先 こだま会事務所045(212)3179
 又は井村友彦0463(81)4493
- 薬膳料理
 と き 7月26日(木)11時~
 と ころ 横浜市健康福祉センター調理実習室(JR桜木町駅前)
 会費 1800円
 内 容 夏を乗り切る薬膳料理
 講 師 亀井禎子会員
 申込先 こだま会事務局045(212)3179
 又は山本文子03(3728)2227
- 囲碁同好会
 月例会(毎月第1日曜日)12時~
 場 所 「囲碁サロン」
 JR藤沢駅南口そば
 申込先 こだま会事務所045(212)3179
 又は青沼慶祐045(782)7665
- こだまサロン
 日 時 毎月最終火曜日14時~16時
 場 所 県職労連事務所(県庁本庁舎6階)
 問合先 こだま会事務所
 045(212)3179

楽しい 趣味の会

第52回 歴史教室 散策

トンネルを抜けると 極楽浄土だった

今回の歴史散策は3月14日、「能見台から歴史の道」。称名寺や金沢文庫などを訪ねた。参加者は12人。

はじめに

鎌倉時代、北條氏は執権(副将軍)として鎌倉幕府を支えた。その支流である金沢北條氏の足跡を訪ねるのが今回の目的である。

経 路

①大寧寺・鎌倉時代創建。源範頼の塔墓と小石川養生所の小川笙船の供養塔がある。

②能見堂跡・寛文年間に地藏堂とし



「称名寺」(写真:佐藤嘉治さん)

て再興。その後、火災により消失。ここからの景観は金沢八景の起源。附近一体を能見台といい、梅の名所。

③金沢文庫・鎌倉時代、北條実時が創設。実時に次ぐ三代にわたり膨



大な書籍を遺した。④称名寺・鎌倉時代の要人、北條実時(金沢北條氏の二代目)が創建した。境内は、春は桜、秋は黄葉と美しい。

⑤明治憲法 草創の 碑・明治 20年から 伊藤博文 らは、瀬 戸で明治 憲法の草 案を練つ た。

⑥旧伊藤博文金沢別邸・明治31年、伊藤博文が野島に建てた明治時代の代表的別荘建設。 ⑦琵琶島神社・北條政子が近江国竹生島明神を勧請し、立身弁財天を

絵手紙



奥津弘久さんの作品

⑧瀬戸神社・源頼朝が伊豆・三島神社を勧請し、鎌倉の東北の守り神とした。海神も祀る。 祀る。琵琶湖形の小島にある。まとめ

金沢北條氏は実泰以来、学問に秀で、武士文書を集めた金沢文庫や浄土庭園を持つ称名寺を遺した。金沢の地は、鎌倉幕府の東の玄関口として栄えた。また、平安時代の古道、金沢道に面して金沢八景の景勝地として江戸、明治時代と繁栄した。

終わりに拙句

能見堂はるかに霞む梅の里 梅の香にトンネル抜けて浄土かな 琵琶島の弁天様に風寒し

扶助子(湯川 勉)

こだま俳壇(4月)

豚舎いま陶器工房ふじざくら

花の雲物忘れの日多くなり

会果てて道にやはらく桜かな

われここに有とばかりのチューリップ

離れては和し離れては和し花後

雪解けて山弛みける米所

花後風に押されて寄り道す

みちのくの膳に初物ふきのとう

満開の桜教会抱くごとく

復興へ第一球や春疾風

春嵐ビニールハウスは大騒ぎ

さくら咲くあまたのおもい胸に秘む

三月や今日からピンクのセーター着て

鶯の初鳴きなにかぎこちなし

弾けそう蕾ふくらむ桜かな

犬ふぐり花咲爺さん種蒔いた

甲斐駒の倒れかかれる桜咲く

小川 水草
鳥海 敏雄
石崎ひろ美
中村 桂子
田中 一男
高橋 和江
横川美代子
坂 守
松尾佐知子
島田多嘉子
木村 武子
三井 光子
鈴木志げ子
白井保次郎
松本 正治
井村 友彦
太田 士男



富士山を背に記念撮影

早春の梅見ハイキング



2人のガイドさんに案内されて

「早春の梅見ハイキング」を2月18日、行いました。参加者は16人。御殿場線下曽我駅を降りると、NPO法人小田原ガイド協会の方に声

歴史の重みを感じてー下曽我

を掛けられました。その方は、なんと県職員OBの西條さん(こだま会会員)。もう一人のガイド・星野さんとお二人に案内をお願いしました。

●富士山がくつきりと

10時50分、ウォーキングの開始。寒さが厳しく梅はまだ一分咲き。お天気がよく、雪をかぶった富士山がくつきりと見え、すがすがしい気分です、ウォーキングを楽しみました。

小田原市曾我の歴史散歩(曾我神社・城前寺・大雲寺・二宮尊徳遺髪塚など)とあわせてのウォーキングは、歴史の重みを感じさせる新たな発見もあり、印象深いものとなりました。

説明を聞きながら2時間30分の散策コース。途中、露店で購入したお菓子などを頬張りながら曾我梅林のメイン会場の別所梅林までウォーキング。ゴールの別所梅林に着いたのは午後1時30分、お昼の時間を過ぎていました。足も疲れ、おなかも空いたので、お昼御飯がおいしく感じました。

下曽我駅3時発の御殿場線に乗り、ハイキングは終了しました。

●こだま句会が吟行

寒さの影響で梅の鑑賞はあまりできませんでしたが、小田原の歴史を

知る良い機会になりました。

今回は、「こだま句会」の皆さんが多数参加し、歩きながら何句もの俳句を生み出していました。

(小島八重子)

吟行句の高得点句を紹介します。

神木に寄揺れる梅の里

松尾佐知子

梅見客かくも集めて一分

三井光子

枯淡とて枯草ほどに悟ら

小川水草

編集 後記

◆みなさん、いかがお過ごしですか。

◆「会員紹介」で辻村博さんは「趣味と友人が支えた健康」を語り、『早春の梅見ハイキング』では偶然、こだま会会員のガイドさんに遭遇。

◆人と人のつながりの大切さを考えさせられます。

◆こだま会総会では、交流を深めたいですね。場所・時間の変更になりました。お間違いのないように。

(鳥)